

令和5年度事業計画

令和元年12月に中国で確認された新型コロナウイルスは、瞬く間に世界中に蔓延。感染の拡大により、人の移動や接触・対面型のサービス消費といった需要が抑制され、同時に、従業員が物理的に集合して生産活動を行う供給活動も抑制され、世界経済に大きな打撃を与えました。

コロナ禍は現在も続いています。ワクチン接種や各国のウィズコロナ政策、さらにはデジタル化の進展などが功を奏し、令和3年には世界経済は力強く回復しました。しかし、昨年2月のロシアのウクライナ侵攻と、歴史的な世界規模でのインフレなどにより、世界経済は再び大きな危機に見舞われています。

コロナ禍で落ち込んだわが国の経済は、政策による下支えと、行動制限等による停滞を繰り返しながらも、ようやく回復基調となっていました。しかし、ここにきて、世界経済の回復をけん引してきた米国経済が減速、欧州では各国の金融引き締めによって景気が悪化、ロシアのウクライナ侵攻の長期化で原油価格などが高騰を続けるなど、わが国の景気回復に赤信号がともっています。

一方、少子高齢化が急速に進展し、生産年齢人口が減少しているわが国では、経済社会の活力を維持するため、女性活躍や高齢者活躍が喫緊の課題とされています。わが国最大の資源である人材の活用を図るため、政府は社会保険改革や生涯現役社会の実現等を掲げ、地方自治体とともに、子育て支援や高齢者の就業機会確保など、女性や高齢者が働きやすい環境の整備に努めています。

こうした中、当センターでは、中期計画に基づき、会員数増や就業機会の拡大、シルバー派遣事業の推進、人手不足分野や現役世代を支える育児分野への就業促進などに、令和3年度から積極的に取り組み、センターの持続的な発展を目指しているところです。特に、会員数増については、静岡県シルバー人材センター連合会などと連携して、全国シルバー人材センター事業協会が策定した「第2次会員100万人達成計画」に取り組んでいます。加えて、「安全・安心なシルバー事業」の確立にも努めています。

令和5年度も、会員と役職員が一丸となって、中期計画の4つの重点目標を達成すべく、様々な事業に取り組んでまいります。

1. 重点目標

- (1) 会員数の拡大と育成
- (2) 就業機会の拡大と開拓
- (3) 組織の充実
- (4) 経営体質の強化

2. 事業計画

(1) 会員数の拡大と育成

- ①様々な機会を捉え、シルバー人材センター（以下「センター」という。）の周知を図り、一人でも多くの高年齢者に入会いただけるよう、入会説明会を毎月開催する。
- ②会員募集を兼ねた技能習得のための講習会の開催などに努める。
- ③企業はもちろん個人にもリピート利用いただくため、会員の技術や接遇などの能力向上に努める。
- ④就業中の事故の発生原因を分析し、分析結果を会員に周知することで、会員の意識啓発に努める。
- ⑤会員の生きがいづくりや、社会参加意欲に応えるべく、地域活動等の機会提供や支援に努める。

(2) 就業機会の拡大と開拓

- ①就業先情報を毎週更新して、会員に提供する。
- ②発注者と会員、両方の理解を得ながら、ローテーション就業やワークシェアリングに取り組む。
- ③新規就業先の開拓、既存就業先の維持・拡大に努め、会員の就業先の枠を増やす。
- ④イベントでのPRなど、様々な機会を活用して、センター事業の周知に努め、市民や市内企業からの受注を呼び込む。
- ⑤多様化するニーズに対応する意味からも、会員のこれまでの職歴を活かせる就業機会の確保に努める。
- ⑥請負・委任に適さない業務については、発注者と協議し、シルバー派遣事業への転換を図る。
- ⑦就業現場の巡回パトロールなどにより、会員の日頃からの安全就業意識の向上に努める。

(3) 組織の充実

- ①センターの事業推進の要である理事会の活性化に努める。
- ②事業運営の中で発生した様々な課題に対して、理事会・各委員会及び関係会員並びに事務局が一丸となって、課題解決に向けて取り組む。
- ③各地区における、会員相互の交流や情報交換、ボランティア活動などを支援する。
- ④職群班のあり方について、改めて協議するとともに、職群班内の技能・技術の向上と習熟を促す。
- ⑤会員の持つ優れた知識や技術・技能を継承できる体制づくりに努める。
- ⑥時代の変化に即応した事務の見直しや職員の資質・能力向上に努める。
- ⑦組織として、安全就業・個人情報保護の徹底に努める。

(4) 経営体質の強化

- ①令和5年10月にスタートするインボイス制度にセンターとしての確に対応する。
- ②経済情勢や最低賃金の動向などを総合的に検証し、請負・委任単価や事務費比率の見直しを図る。
- ③センター運営や会員管理などのデジタル環境整備に努め、効率的な業務運営に努める。
- ④センターホームページやチラシ配布、マスコミへの情報提供などを通じて、積極的にセンターの情報を発信し、存在意義を周知する。
- ⑤会員の一体感醸成に向け、従来の紙媒体やホームページでの会員への情報発信の充実に加え、新たに取り組んでいるスマートフォンを利用した会員向けの情報提供をさらに充実する。
- ⑥静岡県シルバー人材センター連合会などと連携して、全国シルバー人材センター事業協会などからの情報を活かしながら、効率的な経営に努める。